

郷土芸能(重要無形民俗文化財)

「京都の六斎念仏」奉納

8月14日(日) 千本ゑんま堂 特設舞台

午後7時頃から奉納の予定 《観覧無料・少雨開催》
(終了は午後9時過ぎの予定) 観覧席には屋根がありません

注：開演・終了とも15分ほど前後することがあります

当日 境内は駐車できません。公共交通をご利用ください。



[予定演目](都合により変更の場合があります)

- 発願念仏、豆太鼓(6曲)
- 四ツ太鼓(1人打ち~曲打ち)
- 祇園囃子(すずめ踊り)
- 太鼓踊り(猿回し、さらし)
- 獅子舞(巻盤乗り逆立ち)
- 獅子と蜘蛛の精(立ち回り)
- 攻め太鼓、阿弥陀打ち



(奉納保存会)



西陣 千本六齋会

ホームページ

<http://rokusai.jpn.org/>

本公開行事の開催は(公財)京都市文化観光資源保護財団の助成を受け実施しております

重要無形民俗文化財「京都の六齋念仏」と千本六齋会について

「千本六齋会」は、西陣西北部の千本ゑんま堂界隈に伝わる「京都の六齋念仏」を伝承する「空也堂系芸能六齋」で、重要無形民俗文化財の指定を受けている保存団体の一つです。

「京都の六齋念仏」の起源は、平安時代「空也上人」が始めた「空也踊躍（ゆうやく）念仏」であると一般的にいわれております。が、いろいろな説があり、道空上人が広めたと伝えられる干菜寺（ほしなでら＝通称）系六齋念仏を伝承されている保存会もあります。

「六齋念仏」と称される由来は、月のうち六日ある齋日に、市中各所で念仏を唱えたことからといわれております。その後、六齋日を離れ、今では「京都の六齋念仏」の多くは八月の行事（一部は春、秋、年末に）となっておりますが、「六齋念仏」の呼称はそのまま残りました。

「千本六齋会」も、毎年八月に「勸善廻り＝棚経」（十一～十三日）と「千本ゑんま堂での盃蘭盆奉納（十四日）」を、恒例の公開行事としております。

一方「京都の六齋念仏」の形態は、念仏踊を中心にした宗教的演目がほとんどの「念仏六齋」と音曲・演技を取入れた芸能を主体とする「芸能六齋」の二つに分類されます。（当会は芸能系）「京都の六齋念仏」の継承保存団体は、現在、京都市内に十数組あり、昭和五十八年一月に系列・形態の枠を超えて全団体が国から『重要無形民俗文化財』の指定を受けております。

芸能六齋の芸は、江戸時代の中頃、京の町で広まっていた長唄・能・狂言・歌舞伎・神楽・祭囃子など各種芸能の特徴を取り入れ、笛・太鼓の曲や演技が六齋念仏用に創案されました。さらに風流化が進み、原曲と離れた六齋念仏独自の芸能に発展し、「祇園囃子の太鼓踊り」や「獅子舞の碁盤乗り」と蜘蛛」などは芸能六齋の代表的演目になっております。

「千本六齋会」の演目は、伝統の中に新しいものを取り入れていく西陣という土地柄を反映し、テンポの速い華やかな芸が持ち味で、娯楽色の強いことが特徴です。中でも、祇園囃子に取り入れた「すずめ踊り」や、独特の容姿でリズムカルに跳ね踊る獅子舞と、西陣織金襴の衣装が艶やかな「蜘蛛の精」が獅子と大きく立ち回る様は、千本六齋風といわれております。

「千本六齋会」では、会員（後継者）を募集中です。先人が伝えてきた西陣風の六齋念仏を伝承するため、是非、ご入会ください。募集要項は、ホームページをご覧ください。

西陣 千本六齋会

奉納予定演目 平成二十八年八月十四日

- 一、発願念仏唱和・打ち出し
- 二、豆太鼓・四曲（浪花、道成寺、素雅楽、砵）
- 三、四ツ太鼓（二人打ち、相打ち、曲打ち）
- 四、豆太鼓・二曲（山姥、法縁祭）
- 五、祇園囃子「入れ事」（雀踊り、締め太鼓）
- 六、太鼓踊り（堀川猿回し）
- 引抜き手踊り（さらし）
- 七、獅子と蜘蛛（獅子太鼓、獅子舞、碁盤乗り、蚤取り、蜘蛛の精、攻め太鼓）
- 八、阿弥陀打ち（結願念仏唱和）

* 都合により、奉納演目を変更する場合があります
（当公開行事は、京都市文化観光資源保護財団の助成事業です）

重要無形民俗文化財 西陣 千本六齋会 会員募集

千本六齋会が伝承する「京都の六齋念仏」の後継者を募集

- * 年令、性別、住所は問いません
- * 会費不要、だれでも入れます
- * 8月の行事に参加が条件です
- * 練習は通常 毎月 第2・4土曜日夜

紹介ホームページ <http://rokusai.jpn.org/>

